

かけはし

会報 73号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子

事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415

TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



多様性が尊重される社会を目指して！

NPO法人全国LD親の会

理事長 内藤 孝子

全国LD親の会は、現在、38都道府県に、正会員団体44団体、準会員団体1団体、約3,100名(2012.6現在)の会員が加入しています。会員層は、幼児期、学童期から青年期・成人期まで幅広く、ライフステージに応じた支援とともに、一人一人のニーズに応じた支援が求められています。

国は、現在、障害者権利条約の批准にむけて、国内法の改正作業を進めています。教育分野では、平成24年7月に、中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」の報告が公表されました。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、障害のある子どもが十分に教育を受けるための合理的配慮及びそのための環境整備等が示されています。福祉の分野では、平成24年6月に、「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」が公布されました。平成25年4月1日から、「障害者自立支援法」を「障害者総合支援法」とするとともに、障害者の定義に難病等が追加されました。障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方や障害者の意思決定の在り方、成年後見制度の利用促進の在り方などについては、法施行後3年を目途として検討されます。労働の分野では、平成

24年6月、障害者の法定雇用率を改正する政令が公布され、平成25年4月1日から民間企業の法定雇用率については、現行1.8%から2.0%に引き上げになります。平成24年8月、厚生労働省は、今後の障害者雇用の在り方を検討するため、3つの研究会の報告書を発表しました。雇用義務の対象を身体障害者、知的障害者だけでなく精神障害者を加えること、職場での合理的配慮を企業に義務付けることなどが提案されています。今後、これらの報告書の内容は、労働政策審議会(障害者雇用分科会)に報告され、議論されます。そして、平成24年10月からは、障害者虐待防止法が施行されます。

このような環境のもと、全国LD親の会はLD等の発達障害のある人の人権が守られ、生き生きと暮らすことのできる社会の実現、人間の多様性が尊重される社会の実現を目指して活動していきます。全国LD親の会の活動が各地域で一人一人のニーズに応じた支援の充実や各親の会の活動の広がりにつながっていくことを願っています。

本年度も役員一同、各会の皆さんとご一緒に切磋琢磨しながらがんばっていく所存です。どうぞよろしくお願ひします。

特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長 : 内藤孝子

副理事長 : 丹藤登紀子

理事 : 井上育世、多久島睦美、東條裕志

評議員 : 梅野真澄、奥野由美、木村仁美

小林亜希子、茶木敬子、松井典彦

監事 : 清水政子、吉田礼子

特定非営利活動法人全国LD親の会 第5回 総会報告

日時:平成24年6月16日(土) 12:00-13:30

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 研修室402

会員数46団体中、代表者出席24団体、委任状出席19団体の計43団体の参加の中、第1号議案～第4号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】

第1号議案 平成23年度事業報告

第2号議案 平成23年度決算報告および監査報告

第3号議案 平成24年度役員選任(案)

第4号議案 定款の一部改訂(案)

研修会報告

日時:2012年6月16日(土) 13:50~16:40

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟 研修室402

テーマ:LD等の発達障害のある人の就労にむけて

—会員調査報告と親の会の取組—

報告:内藤孝子

発表:NPO法人北海道学習障害児・者親の会

クローバー 事務局長 長田じゅん子

LD等発達障害児・者親の会「けやき」

キャリア教育講座 Wing 代表 新堀和子

今年度の研修会は、LD等の発達障害のある人の就労の実態を踏まえ、うえで取り組みを実施している親の会から発表頂き、意見交換も交えながら、今後各会でどのような取り組みが必要であるかを考える機会としました。

まず、内藤理事長より2011年3月に発行しました「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅲ(全国LD親の会・会員調査)」から概要報告をして頂きました。支援制度の利用状況、後期中等教育・高等教育の状況、移行の状況、現在の状況について2003年、2006年、2009年の3時点での比較の報告がありました。

そこから教育期間の長期化、障害者手帳の取得者の増加、障害基礎年金受給者の増加、障害者雇用を選択する人の増加等の実態がわかり、LD等発達障害のある人が支援を受けやすくなってきている現状が分かったと同時に、まだまだ個別のニーズに対応した支援を受けられていないという課題が見えました。

また9地域の状況の比較の報告もあり、進学や支援制度の利用状況、現在の状況に地域格差がみられました。地域(親の会)での取り組みが重要であるという内藤理事長からの提言の後、2つの会から発表がありました。

まず2011年1月にNPO法人として出発した「クローバー」の長田さんから報告がありました。「2020年を発達障害者の飛躍元年とするプロジェクト」(ハッピーステージ・プロジェクトチーム)を設立し「家族支援」「自立支援」「就労支援」の具体的対策を実践しています。農業体験など地域性を生かした事業の中で、継続的会議体として結成した「これから会議」からは素晴らしい仲間と取り組んでいる様子が分かりました。2012年の「若者に社会参加の勇気を与える事業」にも注目したいと思いました。

「けやき」の新堀さんからは、2003年~2006年にわたっての社会人講座を踏まえ「自分を知った上で自分を認め自分の人生をよりよく選んでいってほしい」という願いから始めたキャリア教育講座Wingの取り組みと効果の報告がありました。2008年からのこの講座は本人だけでなく保護者支援の意味も大きく、ステージ毎の課題と対処方法が詳細にまとめられていました。先駆的であるこの講座は「親の企画運営するキャリア教育~Wing(親の会けやき)の挑戦~」として冊子としてまとめられています。

2つの会の報告から、その成果と課題が見えましたが、活動があつてこそ前に進んでいくものだと改めて感じました。親の会の声であり宝である「教育から就業への移行実

態調査報告書Ⅲ(全国LD親の会・会員調査)」の活用を含め、この研修が各会の今年度の活動にお役に立てればと願っています。(丹藤)

青年の交流会報告

日時:2012年6月16日(土) 12:45集合

テーマ:東京スカイツリーを(外から)見よう

プログラム:13:00~17:00 タワーめぐり

17:00~20:30 懇親会

当日はあいにくの雨模様の上、電車の遅れも重なってしまい出発時間から遅れてしまいましたが、17名が集まりセンターから都庁へ歩いて向かいました。強い雨にも合わず都庁へ着きましたが、展望台からはあいにくの天気です。スカイツリーは見えずじまいでした。展望台にはお土産店もあるため、ここで東京やスカイツリーのお土産(なぜかここでも売っているのです)をゲットしました。

その後地下鉄で文京区のシビックタワーに向かいました。シビックタワーは都庁に比べるとスカイツリーまで近いのですが、やっとスカイツリーが見えるといった状態でした。出発から遅れていたこともあり、タワーめぐりは残念ながらここで終了とさせていただきます。東京ドームで開演真近だった「嵐」の公演に集まった人たちを横目で見ながら、東京駅まで出て、タワーめぐりのみの参加者の人たちとはお別れになりました。

懇親会は13人が参加し、大崎の食べ放題飲み放題のビュッフェでそれぞれの近況も報告しながら、楽しく、おいしく飲んだり食べたりして、ゆったりとした時間を、時間のたつのも忘れて過ごしました。雨や電車の遅れやらと今までと比べると予定通りいかず残念な面が多かったのですが、ワイワイと楽しいひと時を過ごしました。ボランティアの方々に感謝をしつつ、報告とさせていただきます。

(栗野)

懇親会報告

日時:2011年6月16日(土) 17:30~19:30

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター内

「レストラン さくら」

総会、研修会終了後、全国23会50名の参加で懇親会が行われました。内藤理事長の挨拶の後、全国LD親の会の益々の発展を祈りつつ乾杯しました。梅雨の生憎のお天気のため、きれいな夜景を望みながらとはいきませんでした。あちらこちらで、交流の花が咲きました。

宴もたけなわとなる頃、今回で理事、評議員を退任された山岡氏、大曲氏、熊谷氏より在任中の苦労話なども交えながら、ご挨拶を頂きました。お三方には、長きに渡り、全国LD親の会の発展のため、中心となりご活動頂き、各会からも感謝の拍手、拍手でした。

恒例となった各会からの近況報告もいよいよ雰囲気の中、盛り上がりました。各会ともお互い刺激を受けあいながら、活発な情報交換ができたようでした。また、来年、大阪で再会することを約束し、盛会のうちにお開きとなりました。

(木村)

**第11回 全国LD親の会公開フォーラム
特別支援教育と家族支援**

～発達障害のある子どもへの支援の充実にむけて～

日時：2012年6月17日(日) 9:55～16:40
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
小ホール

参加人数：200名
(親の会会員:94名、一般:91名、来賓・講師:15名)

今年のフォーラムは、「特別支援教育と家族支援」をテーマに、最新の情報を交え、講演、行政解説&トーク、パネルディスカッションといったプログラムを企画しました。

【講演】「特別支援教育のさらなる充実と家族への期待」
柘植 雅義(国立特別支援教育総合研究所)

共生社会の実現に向けて、実際の取り組みを交えつつ「特別支援教育のさらなる充実に、保護者や家族の果たす役割は非常に大きい」というお話に、全国LD親の会の事業についても、ひとつひとつ、しっかりと進めていかねばと感じました。



【行政解説&トーク】

「特別支援教育・発達障害者支援行政の

最新情報と目指すべき方向性」

千原 由幸(文部科学省 特別支援教育課 課長)
辺見 聡(厚生労働省 地域移行・障害児支援室 室長)
コーディネーター 山岡 修(NPO法人全国LD親の会)

平成18年に国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」の批准に向けて進められている障害者制度改革の動きの中で、文部科学省と厚生労働省の昨今の発達障害に対する取り組みや、検討状況、24年度予算の概要等について解説していただきました。

文部科学省の千原氏からは、特別支援教育が始まって5年が経過した現状に加え、平成23年7月の障害者基本法改正案可決の流れの中で設置された「中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会」の最新報告から、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築とその構築のための特別支援教育の推進、障害のある子どもが十分に教育を



受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境の整備について、話を伺いました。この報告は、文部科学省のHPに掲載

されていますので、是非とも内容をご確認ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/046/houkoku/1316181.htm

厚生労働省の辺見氏からは、発達障害者支援行政の最新情報と目指すべき方向性ということで、2012年4月に施行された改正児童福祉法の具体的な内容を中心に解説していただきました。今まで進めてきた発達障害者支援施策の中に、この4月に施行された支援体制を今後3年間掛けて、どのように位置付けていくかが重要ということでした。

行政解説に続き、新しい制度についての方向性やその中で家族支援についてトークの場を設け、更に話題を深めていただきました。

【講演】「発達障害児の親の

メンタルヘルスの様相と援助の方向性」

篁 倫子(お茶の水女子大学大学院)

昨年、全国LD親の会の小・中学生の子どもを持つ会員の皆さまにご協力をお願いした調査をもとに、発達障害のある子どもを育てる母親・父親それぞれのメンタルヘルス・QOL、そして支援リソースとの関連性について暫定的なまとめをご報告いただきました。最終的なまとめについては、別途ご報告いただけるということです。



【講演】「発達障害者とこれからの社会」

野沢 和弘(毎日新聞)



発達障害者がこれまでの社会の中で置かれてきた状況を踏まえつつ、混迷を深める日本社会の中にあつて、発達障害者の持つ多様性こそが強みになるのではないかと、いった今後に向けて希望の持てる力強いご提言をいただきました。

【パネルディスカッション】

「発達障害のある子どもをもつ家族への支援」

〈パネリスト〉篁 倫子(お茶の水女子大学大学院)

野沢 和弘(毎日新聞)

内藤 孝子(NPO法人 全国LD親の会)

〈コーディネーター〉井上 育世

(NPO法人 全国LD親の会)

内藤理事長から「青年期の子どもをもつ保護者の心配」と題して、全国LD親の会が昨年発行した「教育から就業への移行実態調査Ⅲ」の内容についての報告後、篁氏、野沢氏のご講演も踏まえて、発達障害のある子どもを持つ家族への支援について話し合いました。家族を孤立化させないための方策や子どもの特性の理解のしかたなど、母親・父親というそれぞれの立場から、具体的な内容のディスカッションになりました。

(井上)

会員の子どもの構成調査

正会員 44 団体分の集計

< 総括表 >

区分	人 数				男女比		
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	37	19	56	1.8%	3.7%	66.1%	33.9%
小学校	584	162	746	24.3%	3.5%	78.3%	21.7%
中学校	428	121	549	17.9%	-7.7%	78.0%	22.0%
高校相当	475	114	589	19.2%	-2.2%	80.6%	19.4%
高卒相当	900	227	1,127	36.7%	2.8%	79.9%	20.1%
合計	2,424	643	3,067	100.0%	0.0%	79.0%	21.0%

< 小学校 >

区分	男	女	計
小1	43	14	57
小2	55	23	78
小3	90	16	106
小4	107	36	143
小5	143	42	185
小6	146	31	177
計	584	162	746

< 中学校 >

区分	男	女	計
中1	126	39	165
中2	158	35	193
中3	144	47	191
その他	0	0	0
計	428	121	549

< 高校相当 >

区分	男	女	計
高1 (高専1年)	147	30	177
高2 (高専2年)	127	36	163
高3 (高専3年)	121	29	150
単位制高校	70	15	85
その他	7	3	10
就労・在宅等	3	1	4
高校相当計	475	114	589

< 高校卒業相当以上 >

区分	男	女	計
大学・短大	119	24	143
高等専門学校4年～	0	0	0
専門学校	52	7	59
就労(一般)(週3日以上)	138	17	155
就労(障害枠)(週3日以上)	239	51	290
パート(一般)(週2日まで)	13	7	20
パート(障害枠)(週2日まで)	18	5	23
職業訓練校・委託訓練	13	8	21
就労移行支援	55	19	74
就労継続支援(A型・B型)	56	26	82
授産・作業所(旧体系)	20	5	25
その他(ボランティア等)	35	9	44
在宅	89	35	124
不明	53	14	67
高校相当計	900	227	1,127

学校種別・在籍状況

< 小学校 >

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	287	38.5%	-1.0%
普通級(通級利用有り)	152	20.4%	-6.2%
特別支援学級	261	35.0%	12.5%
特別支援学校	8	1.1%	100.0%
その他・不明	38	5.1%	15.2%
計	746	100.0%	3.5%

< 中学校 >

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	253	46.1%	-5.6%
普通級(通級利用有り)	42	7.7%	-42.5%
特別支援学級	194	35.3%	-2.5%
特別支援学校	15	2.7%	0.0%
フリースクール等	7	1.3%	75.0%
その他	13	2.4%	-13.3%
不明	25	4.6%	19.0%
計	549	100.0%	-7.7%

< 高校生の状況 >

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制	全日 制	定時 制	通信 制		
普通科	63	11	2	108	0	15	20	10	4	27	0	34	294	49.9%
専門学科 (商業・工業・農業等)	34	2	0	18	0	0	0	1	0	1	0	2	58	9.8%
総合学科	3	0	0	10	0	0	2	0	0	0	0	3	18	3.1%
高等専門学校 (1～3年)	1			0									1	0.2%
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	140	0	0	2	0	0							142	24.1%
高等専修学校	1	0	0	29	3	2							35	5.9%
専門学校	0	0	0	1	0	1							2	0.3%
フリースクール													5	0.8%
その他													5	0.8%
不明													27	4.6%
計	242	13	2	168	3	18	22	11	4	28	0	39	589	100.0%

(人数計は「高校相当計」に合わせた)

	人数	比率
国・公立	294	53.5%
私立	256	46.5%

	人数	比率
単位制以外	446	81.1%
単位制	104	18.9%

	人数	比率
全日制	460	83.6%
定時制	27	4.9%
通信制	63	11.5%

一般社団法人日本LD学会 第21回大会

日時:2012年10月6日(土)～8日(月・祝)

開催校:宮城教育大学

会場:仙台国際センター

〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉台

【大会メインテーマ】

「教育の復興と創造～クラスルームからコミュニティへ～」

●全国LD親の会企画シンポジウム

日時:2012年10月7日(日)10:00～12:00

会場:仙台国際センター 桜1

テーマ:「すべての子どもの学びを保障するために
～教育のユニバーサルデザイン化を考える～」

司会者:内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)

話題提供者:井上 育世 (NPO法人全国LD親の会)

山田 充 (堺市立日置荘小学校)

佐藤 由弘 (伊達市立大石小学校)

指定討論者:品川 裕香 (教育ジャーナリスト)

【企画趣旨】

すべての子どもの学びを保障するには、通常の学級の

中で、全体に効果的な指導とともに、特別のニーズのある子どもへの指導も求められています。シンポジウムでは、全国LD親の会がサポートツール・データベース事業で研究を重ねてきたひとり一人の子どもの特性に応じた支援が、教育のユニバーサルデザイン化にどうつながっていくのか、「全体」と「個」への指導、支援についての課題と展望を検討したいと思います。

●親の会ポスター展示

◇親の会紹介ポスター展示を行います。

各会、模造紙1枚程度の大きさのもの1枚で作成して下さい。事前送付(9月25日まで)または現地持参をお願いします。エントリーされる会は、申込みをお願いします。申込みと送付先は別途案内します。

●懇親会のお知らせ

◇親の会の懇親会を10月7日(大会2日目:全国LD親の会企画シンポジウムの日)に計画しています。詳細と申込みは別途案内します。

(東條)

特別支援教育支援員養成事業



平成24年度、特別支援教育支援員は全国で約4万人が活用されています。文部科学省では、「特別支援教育支援員は、幼稚園、小・中学校、高等学校において、校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、担任教師等と連携の上、日常生活上の介助(食事、排泄、教室の移動補助等)、発達障害等の幼児児童生徒に対する学習支援、児童生徒の健康・安全確保、周囲の児童生徒の障害理解促進を行う」とされていますが、資格要件・資質、養成や研修の実施については、実施主体である市町村に委ねられており、そのバラツキや学校現場での混乱等も指摘されています。今後、特別支援教育を推進していくためには、特別支援教育を支える支援員の育成・活用は急務です。

NPO法人全国LD親の会では、平成21年度より、文部科学省から民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業(特別支援教育に関するNPO等の活動・連携の支援)の委託を受け、「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」を3年計画で実施しました。特別支援教育支援員の資質向上と活用を図るため、特別支援教育支援員の養成講座の体系化、スタンダード構築・提案を目指し、3年間、講座体系の検討、シラバスの策定、養成講座の試行実施に取り組みました。養成講座は、試行実施ながら他に例を見ない充実した講師陣と体系だったカリキュラムで高い評価を得ることができました。

今年度より、新たに日本財団の助成を受け、文部科学省から委託を受け3年間研究した「特別支援教育支援員・ボランティア支援員養成事業」の成果をふまえ、「特別支援教育支援員養成講座(学習支援員コース・支援員コース)の本格実施、文部科学省委託事業により研究を重ねたシラバス、カリキュラムをもとに、テキスト等の整備等を行ないます。また今後、広く日本各地で特別支援教育を支える人材の育成・活用を図るために、各親の会からも協力いただき、養成講座を実施していきたいと考えています。

まず、特別支援教育支援員養成講座(支援員コース、学習支援員コース)は、平成24年8月～11月にかけて大阪府で、大阪LD親の会「おたふく会」と兵庫県LD親の会「たつの子」に協力をいただき、開催します。講座の講師陣は、日本LD学会、特別支援教育士認定協会のご協力を得て、関西でご活躍の特別支援教育士SVの有資格者等を中心にお願ひすることができました。特別支援教育支援員、学習支援員、介助員だけでなく、学童保育・児童デイサービス等で発達障害児の支援を行っている方等に必要な知識や技能を織り込んだカリキュラムで、実施します。

(1) 講座の種類

① 支援員コース

[講習:5日間(20科目/27時間)]

② 学習支援員コース

[講習:7日間(28科目/39.5時間)]

(2) 日時

(支援員コース・学習支援員コース共通)

第1日 平成24年8月25日(土) 9:50～17:00

第2日 平成24年8月26日(日) 9:30～16:50

第3日 平成24年9月29日(土) 9:30～16:50

第4日 平成24年9月30日(日) 9:30～16:50

第5日 平成24年10月21日(土) 10:00～15:00

(学習支援員コースのみ)

第6日 平成24年10月22日(日) 9:30～16:50

第7日 平成24年11月10日(土) 9:30～16:50

(3) 会場

ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)大会議室

(4) 参加定員 50名

(支援員コース、学習支援員コース)

なお、平成25年1月にはボランティア支援員コース(3日間)を、千葉発達障害児・者親の会「コスモ」に協力いただき、千葉県市川市で実施する予定です。(内藤)

JDD ネットより

今後の障害者雇用の在り方に関する3つの研究会の報告書が取りまとめられました ～障害者雇用の更なる拡大と質の向上のために～

厚生労働省では、障害者雇用促進制度における障害者の範囲等の在り方等について検討するため、「障害者雇用促進制度における障害者の範囲等の在り方に関する研究会」(JDD ネット:ヒアリングに参加)、「労働・雇用分野における障害者権利条約への対応の在り方に関する研究会」(山岡JDD ネット副理事長が委員として参加)、「地域の就労支援の在り方に関する研究会」(JDD ネット:ヒアリングに参加)の3つの研究会が開催され、平成23年11月から議論を重ねられてきました。平成24年8月3日付け各研究会の報告書が取りまとめられ、公表されました。

報告書の内容は、以下のホームページに掲載されています。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002gyh3.html>

北海道クローバーより ～2011年 札幌市委託事業 ペアレント・メンター養成講座～

1. はじめに

クローバーは、1987年に活動を開始し今年で25年を迎えました。会の発足当初小さかった子ども達は、現在30代の成人になり、様々な経験をして現状に至っています。その間、社会の変化に対応しながら親たちは会の活動を行い、子ども達の成長のために学んで来ました。

現在は発達障害者支援法と特別支援教育の法制度が整いましたが、具体的な支援策はまだ途上です。子ども達が大きくなるに従い、社会に出るための準備の必要性を感じ、クローバーとして2008年から就労支援事業を始めました。同時に親支援の重要性も感じていましたので、ペアレント・トレーニングも取り入れました。

これらの事業を進めるにあたり、就労のみならず教育を含め多方面に渡った包括的な情報を得るために、全国LD親の会が主催しました「家族支援ピアカウンセラー養成講座」「特別支援教育支援員養成講座」に参加し学ばせていただきました。そして、このことを契機に地元札幌市の委託事業を受けるに至りました。

2. 「ペアレント・メンター養成講座」の概要

(1) 趣旨

各親の会は、茶話会などで先輩保護者が経験を活かして親支援を行っています。それをメンターとしてさらに一歩進めた形で検証し、さらに勉強していく意識向上の必要性があると感じました。

(2) 講座受講対象者

JDD ネット北海道加盟団体で、札幌市に活動拠点を置く親の会の会員とし、中でも中心的に会の活動を行ってきた親を対象としました。人数は40名に設定しました。

(3) 周知手順

各団体の代表へ周知し、受講者を募集しました。人数の割り振りは、各会と連絡を取りながら進め調整しました。

(4) 講座日程

基礎講座を3日間とフォローアップ講座1日を1クールとし、2クール実施しました。

さらに一般への啓発のための公開講座を開催しました。

また、各団体との親睦を深めるためとグループワークを円滑に進めることを目的に、講座1日目の夜に懇親会を行いました。

(5) 講座内容

講師は、北海道大学室橋春光先生を中心に、北海道教育大学旭川校安達潤先生、札幌市自閉症・発達障がい支援センター加藤潔先生、北海道大学渡邊誠先生・松田康子先生、NPO法人えじそんくらぶ高山恵子先生にご協力いただきました。

内容は、基礎講座では「障害特性の理解」「メンター概

論」「カウンセリングマインド」「カウンセリング基礎①②」「相談の現場から」等の講義と「カウンセリング実習①②」のグループワークを行いました。公開講座は高山先生に「発達障がいのある子どもを育てる保護者支援を考える」のテーマでお話いただきました。

フォローアップ講座は、まとめの講義とグループワーク、さらに札幌市保健福祉課発達係長から「発達障がい者支援施策状況」についてお聞きました。

グループワークでは、札幌市自閉症・発達障がい支援センターの方々が、各グループにファシリテーターとして入っていただきました。

3. 成果と課題

今回、JDD ネット北海道加盟団体の内、札幌市に拠点を置く4団体の会員36名のペアレント・メンターが誕生しました。前述したように、各会が今まで活動の中で行ってきた親支援を、メンター養成として研修を受けたことで受講者一同大変有意義と感じることができました。内容では、講義とグループワークの時間を多くしたことで、様々な相談方法と心構え等を学ぶことができました。

受講者の感想の中で「真摯な気持ちで相手のころに共感しつつ傾聴する。とても難しいことでした」とあるように、メンター自身の意識向上を今後も必要と考えています。

また、公開講座では札幌市広報誌に掲載して参加者を募集し、保健福祉課が申込み窓口を引き受けてくださる協力も得られました。

JDD ネット北海道は、2006年に発足し毎年総会と年次大会を開催していますが、今回の講座で一堂に会することによりさらに交流が深められたことは、大変意義深いものでした。

2012年度は、さらにメンターのスキルアップのための「2年目講座」と昨年同様「基礎講座」を開催しています。

また、各会内部活動だけでなく、メンターとして社会へ還元する活動の準備を札幌市保健福祉課のご協力の下進めています。今後はメンターの活動の場を広げていきますが、まずはメンターの存在を知ってもらうことが先決と感じています。札幌市のみならず北海道全体で、メンターが広く知られ必要性を認識されるよう活動していきたいと思えます。

クローバーが、行政の委託事業を受けるきっかけは、全国LD親の会の「特別支援教育支援員養成講座」を受講したことにあります。中央の情報を学ぶ機会を直に得られることは、地方の会にとっては有り難いことと思っています。ここに改めてお礼申し上げます。

長田 じゅん子

(NPO法人北海道学習障害児・者親の会クローバー)

発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方と ユニバーサルデザイン化



サポートツール・データベース事業では、今年度から「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」をテーマに取り組んでいきます。

サポートツール・データベース事業で取り組んできた「LD などの発達障害のあるひとり一人の子どもの特性に応じた教材・教具の使い方」についての基本的な考え方は、単なる「個」についての対応だけにとどまるのではなく、インクルーシブ教育システムの構築における「合理的配慮」と「基礎的環境整備」を考えていく上でも重要な視点といえます。

「基礎的環境整備」を進めるに当たっては、ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要という提言もなされていることから、教材・教具について、一人一人の子どもへの個別アプローチに加えて、どのようなユニバーサルデザイン化が可能か、その方向性と具体的な取り組み方についてのデータベースを整備していく予定です。

「発達障害児のためのサポートツール・データベース」の HP <http://www.jpald.net/research/>

HP での情報発信だけでなく、各地での研修会開催も企画しています。今年度は、10月6～8日に仙台で開催される LD 学会第 21 回大会での親の会企画シンポジウム「すべての子どもの学びを保障するために～教育のユニバーサルデザイン化を考える～」の他に、下記 2 回を検討中です。

○2013年2月10日(日) 東京東部地域

○2013年2月11日(月・祝) 長崎 長崎発達支援親の会「のこのこ」と共催

(井上)

岡山県 LD 等発達障害親の会 はあとりんく が設立されました！

* 設立総会 2012年6月10日(日)14:00～16:00

場所:岡山市岡輝公民館会議室

参加者31名、委任状8名

2011年3月から、親の会設立準備会として活動してきましたが、去る6月10日の設立総会においてすべての議案が可決され、岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく が設立されました。

総会のあとには、グループに分かれての茶話会も開かれ、とても盛り上がり、時間を少しオーバーしてお開きとなりました。地元紙山陽新聞の取材もあり、2月に開催したサポートツールの講演会以後、紙面上で発達障害がシリーズで取り上げられていました。

6月16日の全国LD親の会の評議員会において、はあとりんくの加盟が承認され、これから同じ親の会の仲間として、ともに活動をしていただくこととなりました。

* 設立記念講演会 2012年7月22日(日)13:30～16:30

「読み書きが苦手な子どもの理解と教育的支援」

講師:竹田契一先生 (大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学LDセンター顧問)

場所:岡山市中央公民館第5ホール

7月22日、竹田契一先生を講師にお迎えして、岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく 設立の記念講演会が開催されました。講演会には、保護者や当事者と教員、支援員、塾講師、学童保育といった教育関係の方がほぼ半々という204名(来賓7名を含む)の参加がありました。

来賓として、県教委・市教委や関係機関の方が出席してくださいました。

270名収容という大ホールが満員となり、熱気に溢れた講演会となり、設立して間もない会が、初めての講演会でこれだけの人数を集められたことに、とても驚きました。はあとりんくの皆さんが力を合わせて準備に当たられた賜物だと思います。代表となられた石原さんの挨拶と内藤理事長の心温まる祝辞が心に残りました。竹田先生のお話はLDの基本的な内容や事例とともに時事にも触れた内容でした。岡山ではこのようなLDに関する講演会が初めてということもあってか、参加者は熱心にメモを取って、耳を傾けておられました。今年2月に全国LD親の会が開催した「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」の講演会に続き、今回も岡山の地でのLDへの具体的な支援のニーズを強く感じました。

8月5日現在、登録者数は正会員38人、サポート会員18人で、ボランティア会員3人を含めると、会員数は59名になったそうです。サポート会員には教育や福祉に関わっておられる方が多く、会の企画に参画していただくと期待されています。ボランティア会員は、設立準備会で活動をはじめた当初から、学生さんが託児のボランティアとして積極的に関わってくださっており、会員も安心して活動に参加できます。

今後は全国の各会の皆様と共に、子どもたちとその保護者の笑顔を増やす活動を進めていただけることと期待しています。

(茶木)

親の会設立準備を進めています！ 群馬県 大分県

●群馬県での親の会設立準備

「群馬子どもサポートだるまの会

～発達障害児者親の会～」

今年2月の梅田真理先生の講演会以降、「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」では、設立総会に向けて、着実に準備を進めています。4月と7月に全体会を、その他の月には、キッズ(幼児から小学校低学年)、ジュニア(小学校高学年～中学生)、ユース(高校生以降)の3つのグループに分かれた各グループの活動と運営委員会を行いました。

会員数も40名を超え、10月に予定している次回全体会を設立総会とすることを目指して、ただいま準備中です。また、設立記念の講演会についても、準備が進みつつあるところですので、引き続き支援を続けていきます。

☆全体会(群馬県社会福祉総合センター)

4月21日 活動拠点の確保のために、会則を整える必要があることから、会則の承認を会員に行いました。

7月21日 会則の確認(一部訂正あり)と会費納入について、および「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」のパンフレットについて、代表より説明がありました。

☆各グループ活動 (5月&6月)

キッズ(幼児から小学校低学年)・・・プラネタリウム鑑賞や工作会など群馬大学の学生さんにボランティアとして参加してもらいながら、楽しく活動をしている様子でした。

ジュニア(小学校高学年～中学生)・・・支援者の方の協力を得て、進路についての相談会を実施して好評だったようです。

ユース(高校生以降)・・・就労を見据え、どのような支援策があるのか探りながら、発達障害者支援センターの見学を行いました。(木村)

今年度の親の会設立支援活動

(日本理学療法士協会助成金事業)

昨年(群馬、岡山、大分)に引き続き、地域での親の会設立支援を行っています。本年度は**大分県**での継続支援に加え、新たに、**福島県**、**高知県**で準備会の設立に向けた理解啓発の研修会や相談会等を実施予定です。具体的な日程が決まりましたら、全国LD親の会HPに掲載していきます。

特別なニーズのある子どもたち全てが、どの地域でも必要な支援を受けられるよう、またその家族が孤立化することがない、全国的なネットワーク作りを目指しています。

●大分県での親の会設立準備

「大分県発達支援親の会 じゃんぷ」

第6回定例会 2012年4月29日(日)10:00～12:00

会場:大分県身障者福祉センター

参加者:家族12名、支援者5名

大分県での全国LD親の会第2回特別支援教育講演会後、最初の定例会であり、準備会を始めて1周年となる会でもありました。初参加の家族が11名で、自己紹介後、親の会設立に向けた活動の話し合いを行いました。この1年は主に支援専門員の先生との相談会中心で、子どもの特性理解を通して自分自身の気持ちを整理し、仲間作りをする期間でした。

今後はそれぞれに役割分担をし、準備会の運営、連絡、会員募集等を行っていくことになりました。たくさんの悩みを持つ家族が、お互いにほっとできる場を作りたいという意見が多数でした。

第7回定例会 2012年6月10日(日)10:00～12:00

会場:大分県身障者福祉センター

参加者:会員10名、見学3名、支援者3名

年代別(幼小および中高青年)グループに分かれて近況報告をしました。支援専門員の先生からのアドバイス、あるいはお互いに問題解決のアイデアを出し合い、有意義な会になりました。次回勉強会のテーマも決め、また全体で会の運営に関する話し合いを行いました。

第8回定例会 2012年7月22日(日)13:00～16:30

会場:大分県身障者福祉センター

参加者:会員11名、見学2名、支援者4名

勉強会テーマ:「心理検査とは?」

年代別テーマ:「夏休みの過ごし方、宿題の取り組み方」

心理検査の結果を家庭で、あるいは学校で十分に活用することが難しいという意見が多く、希望者はお子さんの検査結果を個別に解説して頂きました。グループ別の話題「夏休みの宿題」への支援では、読書感想文や作文を書く手順、どうしても無理なものへの対応、長い夏休みだからこそチャレンジしたい料理などの生活スキルアップ、アウトドアの活動体験等、子どもに合わせた取捨選択のアドバイスを頂きました。

第9回定例会 2012年9月30日(日)午後

会場:大分県身障者福祉センター

今後の活動企画等を予定。「じゃんぷ」登録メンバーを募集中です。詳細は、全国LD親の会事務局までお問い合わせください。(梅野)

中教審・特別支援教育の在り方に関する特別委員会

1. はじめに

2012年7月23日に、中央教育審議会から、「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が公表された。今後、法令等の改定を含め文部科学省で検討され数年以内には実施に移されるものと考えられる。この中教審の委員会には、山岡が委員として参加していたので、概要についてご紹介したい。

2010年6月29日の閣議決定「障害者制度改革の推進のための基本的な方向について」により、障害者の権利条約の批准に向け、各省庁において検討することとされた。これを受け中教審に特別支援教育の在り方に関する特別委員会が設置され、障害者の権利条約のインクルーシブ教育システム構築の理念を踏まえ、体制面、財政面も含めた教育制度の在り方について、検討が行われてきた。

本報告書は、本文だけでも60ページを超えるものであり、詳細は文部科学省のHPをぜひご覧いただきたいが、主なポイント以下の通りである。

2. 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要。また、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要と提言されている。

そして必要な施策について、短期(障害者の権利条約批准まで)と中長期(批准後10年間程度)に分けた上で、段階的に実施していくことが提言されている。

【短期】就学相談・就学先決定の在り方にかかる制度改革の実施 など

【中長期】追加的な環境整備や教職員の専門性向上のための方策の検討。権利条約の理念が目指す共生社会の形成に向けてインクルーシブ教育システムの構築

3. 就学先決定の在り方について

最終的な就学先決定は、設置者である市町村教委とするという仕組みは変えていないが、就学指導委員会を「教育支援委員会(仮称)」に名称変更した上で、一定の障害のあるお子さんは原則特別支援学校に入学するとした、現在の制度を見直し、本人・保護者の意見を最大限尊重しつつ関係者の合意を図ることを原則にするよう提言して

いる。また、小学校入学時だけでなく、就学前や就学後も「教育支援委員会」が一貫して支援に当たり、乳幼児期を含め早期から教育相談や就学相談を行うことにより、本人・保護者に十分情報を提供し、本人・保護者と学校、教育委員会が教育的ニーズと必要な支援について合意形成を図りながら決定していくとともに、就学先についても随時見直すことが提言されている。

また、本人・保護者と市町村教育委員会、学校等の意見が一致しない場合については、例えば都道府県教育委員会の「教育支援委員会」に第三者的な有識者を加えて、調整することが提案されている。

4. 合理的配慮及びその基礎となる環境整備

例えば特別支援学校や、各学校における施設・設備を整備することなど、国や地方自治体が教育環境の整備を行うことを合理的配慮の基礎として、「基礎的環境整備」と整理し、その基礎の上に障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことを合理的配慮と定義した。

その上で、合理的配慮の提供については、個別性もあり、LDやADHDを含め障害種別(9種類)に「学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮」といった観点毎(11項目)に、合理的配慮提供の事例を示すという方法を取っている。

5. 多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進

多様な学びの場として、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校それぞれの体制整備の充実を図っていくことと、地域内の教育資源の組合せ(スクールクラスター)により、域内のすべての子ども一人一人の教育的ニーズに応え、各地域におけるインクルーシブ教育システムを構築することが提言されている。

6. おわりに

今回の特別委員会では、私自身発達障害の団体を代表する立場から、かなりの提言・主張を行った。多くの事項を取り上げていただけたが、特別支援教室構想、特別支援学校教諭免許状から特別支援教育免許状への転換、学習指導要領も含む通常の学校における特別支援教育の在り方等、力不足もあり取り上げられなかった事項も多かった。報告書全体は、現時点の対応としてよくまとめられているが、積み残された事項も多い。親の会として、これらの課題について引き続き取り組んでいくことが必要である。(全国LD親の会・顧問 山岡 修)

北海道ブロック紹介

北海道ブロックは、現在4会が所属しています。
ブロック活動として、講演会などを各会と共同開催する形で支援する活動もしています。

旭川LD親の会「ぷりずむ」

代表 児島 恵

ぷりずむは幼稚園児から一番大きい子でやっと大学生とまだ学齢期の子どもばかりなので、就労の事も考えつつコミュニケーション・自信の回復を学習支援サークルや野球少年団の中で取り組んでいます。なかでも野球は自信回復に早い効果をあげていて、一時は30名いた選手？が今は十数名に減りました。これは運動の苦手な子が野球で楽しさを知り、色々な運動にチャレンジしてみたくなって、中学校や高校に入り様々なスポーツの部活に加入したためです。陸上、野球、サッカー、中には少林寺拳法に入った子もいます。部活に入ることによって友人ができた目標ができたたりして楽しむことができます。

結果、ぷりずむの野球に来る時間がとれなくなり人数が少なくなりました。でも、部活が早く終わった時や時間のあまる時には参加してくれて元気な顔を見せてくれます。少し寂しくもありますがとても嬉しい事です。日ハム野球教室も4年連続で来て頂き子どもたちやお母さん達も喜んでいきますので、これからも交流が続けられればと思っています。

室蘭LDを考える「ダビンチの会」

代表 熊谷 辰夫

9月8日(土)に講演会と相談会を開催します。テーマは「その子らしい幸せ～青年期を目指しての子育て～」。

講師は、北海道発達障害者支援センターあおいそらのコーディネーター片山智博氏。相談会の相談員は、講師の片山氏と室蘭市障がい者総合相談支援室長千葉氏です。年度内にもう一回講演会を開催したいと思っています。

写真は札幌の療育センターにあったゲームで、名前がわかりません。エアホッケーの感じでゴルフボールを使用して2～6名で遊びます。直径は1m 80cm、頑丈な作りで重量もかなりありました。楽しかったので身近で遊びたいと思い、また、車で持ち運びしたいので分割組立方式とする為に悩みながら製作をしました。しかし、残念ながら出番が少ないです。

<材料>

コンパネ 2枚

30*30*3mm 60cm材 約3本



特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会 「クローバー」 代表 永瀬 次郎

クローバーでは毎月会議を行い、いろいろなアイデアを出し合いながら活動を進めております。会議には事務局と四部(小学・中学・高等・青年)の代表達が出席し、会議の決定事項は会報を通じて会員へ伝えられます。会議では新しい取り組みについて話し合いをしています。青年たちが自分たちで検討し、計画を練り、実行することで自主性を養おうという“パワフルクローバー”も、その話し合いで生まれました。

活動の中心になっているのは圧倒的に“お母さんたち”ですが、ここ数年間の特徴として“お父さんたち(オヤジたち)”の活動が増えてきたことが挙げられます。毎年親子キャンプでは、かまど作りやヤキソバ作りがオヤジたちの担当になっていますし、“おやじの会”と称した交流会の開催や、“ICT(情報通信技術)による青年支援”など技術的な知識を生かした活動も始めています。

親の会の活動の継続にはいろいろな困難が付きまといまいます。みなさんお忙しい日常のお仕事のかたわら親の会の業務を実行されておりますので、活動の幅を広げれば広げるほどその負担も増えることとなります。しかし新しい取り組みは「子どもたちのために」というボランティア精神だからこそ、少しずつでも進んで行けるのだとも感じています。これからも皆で協力し努力していきますので、よろしくお願ひいたします。

小樽後志LD・発達種がい児・者親の会

「ぼてとの会」 会長 松井 典彦

「ぼてとの会」と北海道ブロック共催の講演会が、9月16日に小樽市で開催されます。今回は、子どもの発達支援を考える ST の会代表の中川信子先生です。演題は「ハッピー親子になる方法」～育てにくい子、気なる子に学ぶ“あたりまえ”の子育て～です。

現在、ぼてとの会からも代表が所属している小樽市自立支援協議会では、子ども支援部会を中心に「支援ファイル」の作成に向けての活動を開始しました。

この支援ファイルを、幼児期から学童期、さらに移行期から青年期へと広げる内容にしていくことと、関係機関の連携やネットワーク化が進むきっかけにしていきたいと考えています。

親同士をつなぎ、関係機関をつなぐ講演会やフォーラムを開催しながら、市民レベルでの意見を吸い上げる形を大切に始めていきます。人口13万人だからこそ活かせる「支援ファイル」、本人や保護者にとって本当に役立つ「支援ファイル」を目指し、頑張っていきたいと思ひます。

● 事務局より ●

空白県対策の一つとして取組んできた岡山県に、岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく が誕生しました。2012年6月10日、岡山市で設立総会を開き、正会員=34名、サポート会員=17名でスタートを切りました。6月16日のNPO法人全国LD親の会の評議員会・理事会で、NPO法人全国LD親の会の正会員団体として承認されました。

● NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 4月08日 2011年度サポートツール・データベース事業(日本財団)事業完了報告書を提出
- 4月12日 平成25年度予算要望書(厚生労働省、文部科学省)提出
- 4月19日 「かけはし72号」発行
- 4月19日 2011年度日本理学療法士協会助成金事業完了報告書を提出
- 4月27日 特別支援教育の在り方に関する特別委員会 5/25、6/8 (山岡)
- 5月17日 大阪維新の会 大阪市議員団へ要望書を提出
- 5月19日 第13回理事会開催
- 5月20日 2012年度事業監査・会計監査(吉田、内藤、丹藤、岩田)
- 5月20日 2012年度日本財団事業 監査(内藤、岩田)
- 5月26日 2012年度事業監査・会計監査(清水、内藤)
- 5月24日 第5回総会議案を各会に発送
- 6月04日 資産変更登記完了
- 6月05日 NPO法改正にともなう理事の代表権喪失の変更を申請
- 6月10日 一般社団法人日本発達障害ネットワーク 第2回代議員総会・理事会(内藤、山岡)
- 6月10日 岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく 設立総会(井上、茶木)
- 6月16日 NPO法人全国LD親の会第5回総会、研修会、懇親会(国立オリンピック記念青少年センター)
- 6月16日 NPO法人全国LD親の会第11回評議員会、第14回理事会(国立オリンピック記念青少年センター)
- 6月16日 NPO法人全国LD親の会青年の交流会(東京)
- 6月17日 第11回全国LD親の会公開フォーラム(国立オリンピック記念青少年センター)
- 6月26日 特別支援教育支援員養成講座(大阪)受講生募集
- 6月28日 平成23年度事業報告、役員変更届けを東京都に提出
- 7月02日 定款変更届けを東京都に提出
- 7月10日 全国特別支援教育推進連盟理事会(内藤、丹藤)
- 7月21日 「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」設立準備会(木村)
- 7月21日 岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく 設立記念講演会(内藤、茶木、小林)
- 7月22日 「大分県発達支援親の会 じゃんぷ」設立準備会(梅野、奥野)

● 第14回理事会報告

召集年月日:平成24年6月12日

開催場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

開催日時:平成24年6月16日 23:00～23:30

出席:井上育世・丹藤登紀子・東條裕志・内藤孝子

欠席:多久島睦美

[議案]

1. NPO法人全国LD親の会第11回評議員会における審議について

<審議事項>

- ・岡山県LD等発達障害親の会 はあとりんく 正会員としての入会について
- ・山岡修氏の顧問選任について
- ・第6回総会の日程(平成25年6月8日(土))について
- ・全国特別支援教育推進連盟への加盟について

<決議>

全員一致で、第11回評議員会における審議結果を承認した。